

令和2年 第10回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和2年10月23日(金)

2 招集場所 大河原町役場 執務室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 八島良隆、学校教育専門監 山家一博

5 開 会 午後2時

6 令和2年第9回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

一盃森委員、小山委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告について

なし

(2) 専決事務報告

なし

8 議 事

なし

9 その他

(1) 教育長報告

新聞記事から。

- ・学級活動で「関わり」回復 (読売新聞 R2.9.25)

新型コロナウイルスによる休校は、子ども同士の「関わり合い」を断ってしまった。学校再開後、話し合いなどを通じ子どもたち自身で身近な課題に取り組む「学級活動」が見直されている。長期休校をきっかけに、これまで当たり前にあった人との触れ合いの大切さに気付き、学級活動の大切さを再確認した。

- ・密避け運動会 (朝日新聞 R2.10.5)

新型コロナウイルスの感染拡大で、運動会の風景が様変わりしている。学校行事が

相次いで中止となるなか、「せめて運動会だけは開きたい」と、学年を区切って開催したり、密にならないように組体操・騎馬戦を取り止め、リレーはバトンを使わず「ひじタッチ」にするなど工夫をして行っている。

- ・新井紀子のメディア私評 小中学生にも伝わる文章めざせ（朝日新聞 R2.10.9）
新聞は義務教育レベルで読めることを建前としているが、自分の書いた記事が中高校生に読解可能かを日々意識している記者やデスクは果たしてどれだけいるだろうか。リーディングスキルテストでは、中高校生の正答率が5割どころか3割を切る新聞出典の問題は珍しくない。語彙が難しいからではなく、新聞を読みなれている人しか読めないような文章が多いのだ。
- ・わいせつ教員 SNS 悪用（読売新聞 R2.10.11）
2019年度までの5年間に教え子へのわいせつ行為などで懲戒免職を受けた公立学校教職員496人のうち、少なくとも241人が被害生徒らとSNSなどで私的なやりとりをしていたことが全国調査でわかった。今回の調査では、全国67教委の7割にあたる48教委が、通知や内規などで教員と児童生徒との私的なやりとりを禁止していたことも判明した。
- ・現地研修ようやく一歩（河北新報 R2.10.11）
県教委は新任校長の研修会を今年11月初めて大川小学校で開く。来年度以降、新規採用した教職員全員を対象を広げる方針である。
- ・教員を啓発「自分事に」（河北新報 R2.10.13）
2012年4月に県内の拠点となる40の公立小中学校に防災担当主幹を、全ての公立小中高校に防災主任を置いた。防災担当主幹の肩書はより幅広い「安全」に変わり、いじめ、不登校、交通安全など対象が拡大した。学校安全に求められる内容は多岐にわたり、思うように学校防災を扱い切れていないのが実情である。
- ・安全な避難所共に議論（河北新報 R2.10.14）
文科省は大川小津波事故訴訟判決の確定後、学校防災に関する通知を出し、地域住民や専門家らの助言を踏まえ、学校防災マニュアルを見直すよう求めた。しかし、教員の業務多忙や市町村の防災担当と連携が困難など、地域連携を推進する上でのハードルが浮かび上がった。
- ・組織の責任顧みる契機（R2.10.15）
大川小確定判決後、組織として賠償責任を負うようになってきており、学校に限ら

ず企業や福祉施設などあらゆる組織が判決を自らに置き換え、防災を見直す意識を持てるかどうか問われている。

- ・語る未来の命守るため（R2. 10. 16）

大川小津波事故の遺族は、オンライン語り部や講演会など、それぞれの置かれた立場から発信を続けている。

- ・学校のトイレ今でも和式4割（R2. 10. 18）

文部科学省の調査で、全国の公立小中学校にあるトイレのうち4割が和式トイレであることが明らかになった。各都道府県の教育委員会にトイレの設置方針を尋ねたところ、9割以上を様式にすると答えた自治体は半数程度だった。文科省の担当も「駅などにはいまだに和式があり教育上必要」という学校の要望に加え、「他人の座った便器に座らせたくない」との保護者の声があると分析する。

1 保護者対応・生徒指導

(1) 「信頼を取り戻そう」「道徳的態度を育てる」(横山利弘)

保護者と教師の間に信頼関係がなければ、子供と教師、子供と保護者の間の関係も崩壊しかねません。結果的には、子供の健全な育ちが阻害されるのです。なぜなら、人間は信頼していない人から何かを学ぶということはないからです。教師は児童・生徒とゆとりを持って関わるのが大切であり、大きく包み込む度量、まさに大度が必要なのである。

(2) 「人は、なぜ他人を許せないのか？」(中野信子)

人の脳は、裏切り者や、社会的のルールから外れた人といった、わかりやすい攻撃対象を見つけ、罰することに快感を覚えるようにできている。他人に「正義の制裁」を加えると、脳の快楽中枢が刺激され、快楽物質であるドーパミンが放出される。この快楽にはまってしまうと簡単には抜け出せなくなってしまい、罰する対象を常に探し求め、決して許せないようになるのである。この認知構造は、依存症とほとんど同じであり「正義中毒」となってしまうのである。

(3) 「教師の悩み」(諸富祥彦)

保護者に限らず、いわゆる「クレマー」に共通の心理は、「自己愛の傷つきが激しい」という点です。文句を言う人は一見攻撃しているように見えますが、心の中では「自分は被害者だ」という気持ちが強いのです。「もっと私を大切にしてほしい」という屈折した気持ちがクレームとして表れているのです。したがって対処法としては、「あなたのことを大切に思っている」という態度を示すことが重要になる。「この学

校・先生は私のことを大事にしてくれる」と保護者が実感できるような対応をすることが原則である。「おもてなしの心」を持って接することで、被害者感情がやわらぐと、自然とクレームが沈静化するのである。

2 学力向上

9月17日に村建地所からご寄付を頂いた。大河原町に住みたいと考えるかたの多くが、子供の教育環境に関心を持っている。自分の子供に学力の高い大河原町で教育を受けさせたいと考えているようである。

(1) 令和3年度指導主事訪問・校内研修について

令和3年度の新規事業として、教師の指導力向上研修を実施したいと考えている。宮教大・宮城学院女子大から大学教授を招聘し、校内研修会を実施してアドバイスをいただく機会を設けたいと考えている。

(2) 「学力格差を克服する」(志水宏吉)

「見える学力」を伸ばすためには、その土台にある「見えない学力」がしっかりしていなければならない。見えない学力の要素は、「自尊感情」「学習習慣」「目的意識」であり、それぞれのハードルを越えていかなければ、確かな見える学力が定着しないのである。

(3) 「算数とキャリア教育」(笠井健一)

「算数を使うと、生活をよりよくすることができた！」という体験・経験を子どもたちに積み重ねることが大切である。小学校の数学は、学習内容そのものを将来職業についたときに使う。職業に就いて仕事をするうえでも、日常生活においても、算数で学習した内容や考え方を活用して、物事を判断することができるのは大切である。すなわち、キャリア教育として大事にしたいことは、算数そのものの考え方を使うことができる力を育成することである。

(4) 「学習評価」を生かした PDCA サイクルの確立

3つのPDCAサイクルは大河原町の特色であり、「年間PDCAサイクル」は2回の町独自学力調査を実施し、学習評価の柱とするものである。「単元PDCAサイクル」では、中間期末考査・単元テストのほかにも過去問テストを行うことが必要であると考えられる。「1単位時間PDCAサイクル」の中では、5つの提言にあったように授業の最後に必ず小テストなどを行い評価する。また、授業の途中では指導と評価の一体化ということで形成的評価を行い、褒めて伸ばす指導を行う。学力を向上させるため、あるいは質の高い授業を展開していくためには何が必要かを説明した。

(5) 小学校英語教育

小学校5・6年生の教科書の辞書に掲載されている575単語で英単語ノートを作成した。ゲーム感覚で子どもたちに覚えてもらおうと楽しいのではないかと。各学校にもデータを配布した。工夫したところはカタカナで振り仮名を入れたことであり、大小の英語専科の先生にも確認していただいた。実際の英単語の発音に近いカタカナ表記を記載した。ALT・ネットなどで発音を確認して覚えるようにして欲しい。

3 宮城県市町村立学校教頭候補者選考 筆記試験結果

大河原小2人、金ヶ瀬小1人、大河原南小1人、大河原中1人の計6人全員合格した。本日面接試験を行っている。

4 人事異動について

(1) 教育長・校長打合せ

11月9日に各学校の校長先生と人事異動についての打合せを行う。校長先生の人事異動の希望や学校運営についての構想を聞いて、人事異動に反映させていきたい。大河原小1人、金ヶ瀬小1人が仙台市の教員試験を受験して合格した。

(2) 第1回ブロック会議

11月12日にブロック会議が行われる。

5 その他

(1) コロナウイルス感染症対応

① 「ドライブスルー型PCR検査」「消毒作業」

② 「久保准教授（宮教大）によるアンケート内容精査」

750人を超える児童のアンケートを一枚一枚読み、児童の心の不安等の状況を分析していただいた。また、本図教授（宮教大）から学校再開に向けての留意点についてご教授いただいた。心のケアや危機管理について、専門家の先生に助言をいただいたことは、学校が自信を持って対応できたことにつながったばかりではなく、保護者にも一連の対応をお知らせしたことで安心してもらうことができた。

(2) 柴田郡新人大会

優勝・準優勝・3位に入賞した部活が多く、それぞれに頑張っていたようである。特に部活動指導員を導入した卓球部は、今まで入賞することができなかったが、大中男子（3位）・大中女子（準優勝）・金中女子（3位）と入賞することができた。素晴らしい指導者に恵まれ、生徒も力を発揮することができた。

(3) 大河原南小学校ミニスポーツ大会

新型コロナウイルス感染予防対策のアイデアを出しながら、楽しくスポーツ大会を行っていた。保護者の方々も、自分の子どもの頑張りを見るために訪れていた。

(4) 大河原町ジュニアリーダー初級研修会

生涯学習課長がテント設営等について中学生・高校生に説明を行った。この研修を受講した子どもたちが、11月8日に実施するインリーダー研修の指導者となりデイキャンプを行う。

(5) 金ヶ瀬小学校スポーツ祭

普段の運動会とほぼ同じ内容で行った。ダンスと表現を融合させて運動量を確保していた。無駄なことがなく、見ていて楽しく子どもたちも非常に満足しているようであった。

(6) 大河原中学校「学習文化発表会」

このような時期にきちんと合唱指導ができたことは大変立派であると感じた。

(7) 大河原南小学校「もがり祭」

新型コロナウイルス感染予防のため、収穫祭は行わず音楽発表会のみを行った。非常にきれいな歌声であった。

(8) 金ヶ瀬中学校「金中祭」

感動的な場面がたくさんあった。吹奏楽部が非常に上手であった。保護者の方々も多く来場していただいた。

舟山委員	新人大会について。大河原中学校にはソフトテニス部はないのか？
教育長	今年度は個人戦のみ行った。上位の成績を収めている。
教育総務課長	今回の報告は、団体戦の成績のみを報告している。
丹羽委員	新型コロナウイルスについて。感染した方に対しての誹謗中傷が無いように安心した。感染する可能性は誰にでもあり、誰の責任でもない。英単語ノートについて。学校に配布したデータには音声は入っているのか？
教育長	音声は入っておらず、文字のみのデータになっている。
丹羽委員	平成31年度全国学力・学習状況調査について。大河原中学校の点数が低い。学校に行くのが楽しいと思わないと学力も向上しないのではないか。指導する先生も知識だけではなく知恵も必要であり、道理にかなったコミュニケーション能力がないと勤まらないと感じた。

一 盃 森 委 員	保護者対応について。教育委員会で対応に苦慮しているケースはどれくらいあるのか気になった。
教育総務課長	ほとんどの方は学校運営に関して協力していただけるが、2～3年前くらいから弁護士へ相談するようなケースも出てきている。教育委員会が学校から相談を受け、弁護士へ相談をして学校と連携しながら対応をする案件が3件程度あった。保護者間の争いになることもあった。
一 盃 森 委 員	保護者の方には、クレームではなく学校にご意見をいただくようにしてほしい。ご意見をいただいた時に学校がどのように捉えるのか。学校の論理で、学校が正しいと言ってしまうのではなく、最初の段階でどのように学校が対応するのが大事ではないか。それから学力向上関係について。どうして中学校に入学すると学力が低下するのか。自尊感情が低くなってしまふのか。スマホ・SNSが普及したことによって、自分をいかに守ることにすごく時間を費やしていると感じる。特に大河原中学校が。自分が安全な位置にいることを確かめてからではないと勉強が手に付かないという傾向があるのではないかと思った。 新型コロナウイルスに関して。大河原小学校のホームページがアクセス集中してしまって開けなくなってしまった。翌週の木曜日にやっと解消したようである。いかに町民の方の関心が高かったかということだろう。町のホームページでも良いので、もう少し情報を掲載するようにしても良かったのではないか。現状はこのようになっていて、町はこのように対応した。それくらい解れば町民の方も安心できたのではないかと思った。臨時休校後に日赤の「コロナの3つの顔」という資料を活用して小学校で指導をしていただいたようである。差別を生まないように指導してから学校生活を再開したのは非常に良かった。
小 山 委 員	英単語ノートについて。非常に良いと思って見ていた。小学校のうちから英単語を覚えることで、中学校でも楽しく授業ができるのではないかと感じた。新型コロナウイルスについて。例えば、小さなお子さんがいるひとり親家庭で感染者が出た場合は、町では何か対応をしてくれるのか？
教育総務課長	心のケアということで、民生委員（福祉課）や保健師（健康推進課）が対応することは可能である。
教 育 長	感染した児童の保護者から、ネットでの誹謗中傷があるのではないかとこの相談が学校にあったようである。
小 山 委 員	感染した方が安心して検査を受けて治療ができるような体制が確立できれば良いと思った。
舟 山 委 員	新型コロナウイルスで職を失って生活に困っている方について、町ではどのように対応しているのか。

学校教育係長	学校が再開する際に、各家庭に就学援助についての案内を配布し、コロナ後の所得で判定することを周知した。4世帯から申請があり認定をした。
小山委員	就学援助申請まではいかないが、収入が減ってしまったため受験生で塾をやめてしまったお子さんもいるようである。学校で放課後の時間を活用して勉強を教えることはできないのでしょうか。
教育長	来年度の新規事業で塾に行っていない子どもたちに対して何かできないかと考えていたところではある。費用も掛かるので状況を見て判断していきたい。
教育総務課長	来年度は新型コロナウイルスの影響で税収が減少することが予想されるため新規事業を行うのが難しいところではある。国・県で学習支援について人間的な補助があるようなのでそちらを活用して人員を増やしたい。タブレットも導入されるのでそちらも上手く活用していきたい。

(2)課長報告

教育総務課長

新型コロナウイルス感染症対策状況について。大河原小学校プール薬剤師による水質検査の未実施について。大河原町内各学校のプール利用回数について。GIGA スクール構想のICT機器の導入台数について。11月の予定について。

教育長	大河原小学校の水質検査の未実施について。大変申し訳ありませんでした。今後はこのようなことがないよう気を付けたいと思います。
-----	---

生涯学習課長

11月行事予定について。新型コロナウイルス感染予防に伴う成人式の変更点について。大河原町総合体育館の指定管理について。駅前図書館について。

丹羽委員	成人式の対象人数について。白石市・角田市と比べて人口は少ないが、成人式の参加人数は同程度となっている。近隣の市町村は、人口が減少しているということである。魅力的な町をつくるには教育の力が重要であると感じた。
舟山委員	図書館の本の貸出について。1回で10冊も借りることができるのか。
生涯学習課長	昨年から5冊から10冊に貸出冊数を変更した。仙南2市7町と岩沼市の方も貸出カードを作成し、本を借りることができる。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回は令和2年11月19日(木)午後2時から開会を開催する。

11 閉会宣言 午後3時57分

令和2年11月19日

署名委員

署名委員